




# 琉球大学学術リポジトリ

初診時うつ状態の成人患者の中から自閉症スペクトラム障害患者を見出すために診断の参考となる臨床指標について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2015-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): autism spectrum disorder, interpersonal friction, bullied experience, psychotic-like experiences, age under 32 years 作成者: 高良, 聖治, Takara, Kiyoharu メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/30601">http://hdl.handle.net/20.500.12000/30601</a>

(別紙様式第7号)

## 論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	高良 聖治
論文審査委員	審査日	平成 26年 10月 29日	
	主査教授	高山 千利 	
	副査教授	石内 勝吾 	
	副査教授	青木 一雄 	
(論文題目)			
Autism spectrum disorder among first-visit depressed adult patients: Diagnostic clues from backgrounds and past history (初診時うつ状態の成人患者の中から自閉症スペクトラム障害患者を見出すために診断の参考となる臨床指標について)			
(論文審査結果の要旨)			
上記論文について、研究に至る背景と目的、研究内容、研究成果の意義と学術的水準について慎重に検討し、以下のような審査結果を得た。			
1、研究の背景と目的			
成人期になって初めて自閉症スペクトラム障害 (Autism spectrum disorder: ASD) と診断される患者の自閉症特性は典型的でないため臨床現場で見逃されやすい。しかも、彼らはうつ状態となって初めて病院に受診してくることが多い。そのため、うつ状態の ASD 患者が単独受診したとしても、ASD を疑わせる臨床指標を把握していれば、診断の見落としは減るものと思われる。今回の研究目的は、うつ状態の患者の過去の体験や臨床背景からこのような臨床指標を見出すことである。			
2、研究内容			
対象患者は当院にうつ状態で受診した成人患者 430 人である。そのうち、ASD 患者は 70 名 (16%)であった。これは驚くべき高い割合である。というのは、ASD の有病率は人口の約 1% であるからだ。次に、この ASD 患者群 70 名とそうでない患者 (non-ASD) 群 360 名で後方視的に症例対照研究を行った。この 2 群間で比較する変数は初診時年齢、精神疾患の発症年齢、性別、学歴、婚姻歴、独居の有無、身体疾患の有無、気分障害の家族歴、不登校歴、いじめ被害歴、精神病様症状、素行障害行動、過去の自殺関連行動、職場での対人トラブル歴の 14 変数である。			
初めに、この 2 群間で各変数を比較した。次に、430 名の対象患者の中から ASD 患者を判別するにあたって影響力の強い変数が何であるかを同定するために、各変数を独立変数として扱い判別分析を行った。すると、ASD 患者を判別することに影響力のある変数が 6 つ [職場での対人トラブル歴、いじめ被害歴、精神病様症状、受診時年齢 (若年齢)、不登校歴、高学歴] 同定された。同定された 6 つの変数の中の受診時年齢 (若年齢) という連続変数に関して、ASD 群と non-ASD 群を分けるにあたって最適な受診時年齢 (カットオフ値) を Younden Index を用いて計算した。すると、受診時年齢 32 歳未満が最適なカットオフ年齢であることが判明			

した。次に、この6つの変数を組み合わせて調べたところ、職場での対人トラブル歴、いじめ被害歴、精神病様症状、受診時32歳未満の4つの変数のうち、一つでも当てはまれば、感度93%でASD患者を見つけることが可能であると判明した。ただし、陽性的中率は32%であった。逆に、上記4つの変数の一つもなければ、陰性尤度比0.11と低い値であった。

### 3、研究結果の意義と学術的水準

4つの項目（職場での対人トラブル歴、いじめ被害歴、精神病様症状、受診時32歳未満）のうち、一つの項目でも当てはまれば、ASD患者の93%を網羅することが可能であるため、この4つの項目を確認することはスクリーニングツールとして有用であると考えられる。逆に、陰性尤度比0.11と低いため、これら4つの項目の一つも当てはまらなければ、うつ状態のASD患者でないという除外目的のツールとしても活用できる可能性が示唆された。したがって、この簡易な問診は多忙な臨床現場でうつ状態の患者の中からASD患者を拾い上げるための有用なツールになりうるのである。しかし、このツールは特異度が62%と高くない。これは恐らく臨床背景や過去の生活史だけでASD患者であると診断することに対する限界を示していると思われる。つまり、確定診断をするには、やはり、専門医による詳細な問診と診察が必要になるのである。以上のことから、この論文の研究内容は国際的に評価されるものであると判断される。

よって、本研究は学位授与に十分に値するものであると判断した。

- 備考
- 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
  - 2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
  - 3 \*印は記入しないこと。